

夢×人×地域「社会とつながる特別支援学校」

**「企業と共同して取り組む作業学習の開発」の実践研究**

(令和元年度～令和3年度)

**-R2 年度 研究のまとめ -**

令和3年3月

宮崎県立みやざき中央支援学校

# 目 次

|      |         |   |
|------|---------|---|
| I    | 研究主題    | 1 |
| II   | 主題設定の理由 | 1 |
| III  | 研究の仮説   | 1 |
| IV   | 研究の組織   | 1 |
| V    | 研究の方法   | 2 |
| VI   | 研究計画    | 2 |
| VII  | 研究の実際   |   |
| 1    | 令和元年度   | 3 |
| 2    | 令和2年度   |   |
| 3    | 令和3年度   |   |
| VIII | 研究のまとめ  | 3 |

## I 研究主題

夢×人×地域「社会とつながる特別支援学校」推進事業  
「企業と共同して取り組む作業学習の開発」

## II 主題設定の理由

本校は、本年度より3か年計画で、宮崎県教育委員会推進事業『夢×人×地域 社会とつながる特別支援学校「職業コース」「共生コース」の実践研究』の指定を受けことにより、この推進事業と連携し、本校高等部の作業学習の取り組みを評価改善することで、生徒がより一層主体的に学ぶことができる新しい作業学習の在り方を見出していきたいと考えた。

令和元年度に新しい作業編成を組織して、令和2年度にこれらの作業編成の改善を弾力的に進め、令和3年度には、新しい作業編成を確立して、生徒にとってより有意義な作業学習の運営を行う計画を立てた。令和2年度より新設の福祉・流通班については、新たにOAを扱ったグループを組織して、GMOドリームウェーブ社と連携しながら、就労について必要とされる力の明確化、スキルを高めるために必要とされる授業の在り方等を中心に据え、研究を行っていく。新たに組織した環境整備班については、明星視覚支援学校とグラウンド整備を中心とした連携を図り、作業学習として確立するための研究を行うことにした。

また、各作業班の連携を図るため、福祉流通班の生徒と環境整備班の生徒と一緒にチャレンジ検定に参加させたり、令和3年度には、福祉流通班の3年生の生徒を「出向」という形で、各作業班に所属させて作業をさせたりするなど、各作業班との連携も深めながら運営し、生徒にとってさらに有意義となるシステム作りを研究のねらいとして行っていく。

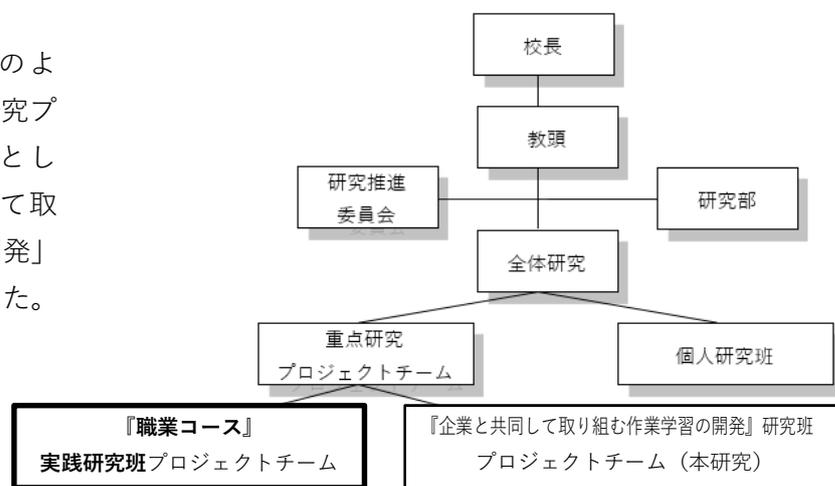
## III 研究の仮説

本校高等部にて実施している作業学習について評価改善を行い、新しく編成した作業学習への取り組みを評価改善することで、生徒がより一層主体的に学ぶことができるであろう。

また、就労について必要とされる力の明確化、スキルを高めるために必要とされる授業の在り方等を探ることで生徒にとって、さらに有意義となるシステム作りを行うことができるであろう。

## IV 研究の組織

研究組織を以下のよう  
に定めた。重点研究プロジェクトチームとして、「企業と共同して取り組む作業学習の開発」実践研究班を設置した。



【図1：R2年度 校内研究組織図 『職業コース』実践研究班より】

## V 研究の方法

以下のように研究を進めた。

- 1 高等部内に設置したプロジェクトチーム（各作業班チーフ等）において、新しい作業班を設置するための具体的な手順や方法、評価改善など、新しい作業編成の在り方を検討した。また、他県先進校の視察を行った（令和元年度実施済）。
- 2 プロジェクトチーム内で創出された「案」を高等部会にて議題として提案し、必ず協議を経た上で決議・コンセンサスを図った。
- 3 検証が必要な事項が生じた場合は、現在の作業研究班、作業チーフ会にて実践の後、評価改善を行った。
- 4 ミライム等を活用しながら校内（小学部・中学部・寄宿舍も含む）にも発信し、学校内のコンセンサスを図った。

## VI 研究計画

### 1 研究の期間

本研究は、令和元年度から令和3年度までの3か年で取り組むこととした。

#### 研究の概要

本校高等部にて実施している作業学習について評価改善を行い、新しく編成した作業学習への取り組みについて、評価改善を行う。また、就労について必要とされる力の明確化、スキルを高めるために必要とされる授業の在り方等を探り、生徒にとって、さらに有意義となるシステム作りを行う。

具体的には、

- ・元年度…新しい作業編成を行い、運営方法を共通理解して、準備段階での研究を行った。
- ・2年度…新作業編成の実践を行い、成果と課題を明確化して、詳細の調整を行った。
- ・3年度…新作業編成とシステム運営の試行実施

### 2 研究の進め方についての確認事項

組織が大きく、職員数が多い本校において研究を円滑に進めるために下記のことについて共通理解を図った。

- (1) 学校（職員）全体で取り組み、研究において立場は対等であること。
- (2) 討論は自由であり、意見は代案をもった建設的な「改善案」であること。
- (3) 結論を「全体の総意」とすること。
- (4) 解決方法が具体的で明確にだせること（～したい、で終わらない）。

## VII 研究の実際

### 1 令和元年度

- (1) 進路先を決定するために必要とされる教師側から見た生徒(Ⅱ・Ⅲ課程)像についての共通理解を図り、作業編成作業に活かす。【資料1】
- (2) 新作業編成を学部に提案し、令和2年度より実施する。【資料2】
- (3) 各作業班の目標と内容について、学部内で共通理解を図り、実施準備を行う。【資料3】
- (4) 新作業班の設置理由と作業編成との在り方について【資料4～5】
- (5) 高等部作業全体計画各作業班の年間計画作成(オープン班を除く)【資料6～7】

### 2 令和2年度

- (1) 福祉流通班に所属する生徒の基準について【資料8】
- (2) 現在の問題点の洗い出しと改善ポイントの明確化【資料9】
- (3) 作業グループ分けや指導体制等の確立 → 環境整備班研究授業による検証(生徒の学習活動評価)
- (4) GMOドリームウェーブ社との共同研究の経過と福祉流通班(OAグループによる検証授業)【資料10～11】
- (5) 評価を次年度の生徒の作業決定に活かす
- (6) 次年度の作業種目完全実施のための学習指導体制の確立

### 3 令和3年度

- (1) 完全新作業編成と運営の評価と改善点
- (2) 「職業コース」と新作業編成と運営についての関連
- (3) GMOドリームウェーブ社との共同研究のまとめ
- (4) 明星視覚支援学校との連携に関する研究のまとめ
- (5) 3か年研究のまとめ

## VIII 研究のまとめ(令和2年度)

今年度より新作業編成による試行期間として、作業学習に取り組んだ。研究により、成果と課題も明確化することができ、今後の作業学習に活かすものが出来上がった。

特にGMOドリームウェーブ社との連携や明星視覚支援学校との連携に取り組むことができ、生徒に関する資質や必要とされる授業内容等の研究に取り組むことができたことは、非常に良かった。GMOドリームウェーブ社との共同研究においては、ITを駆使した企業へ送り出す生徒のイメージが違って、コミュニケーションを重視した採用を行っているとのことについては、生徒への指導の方向性や実際に取り組む授業の在り方について認識を深めることができた。

新作業班である環境整備班についても、明星視覚支援学校へ毎週グラウンド整備に行くなどの連携を深め、生徒の気持ちの変化や自信を付けたことなども成果として挙がる。

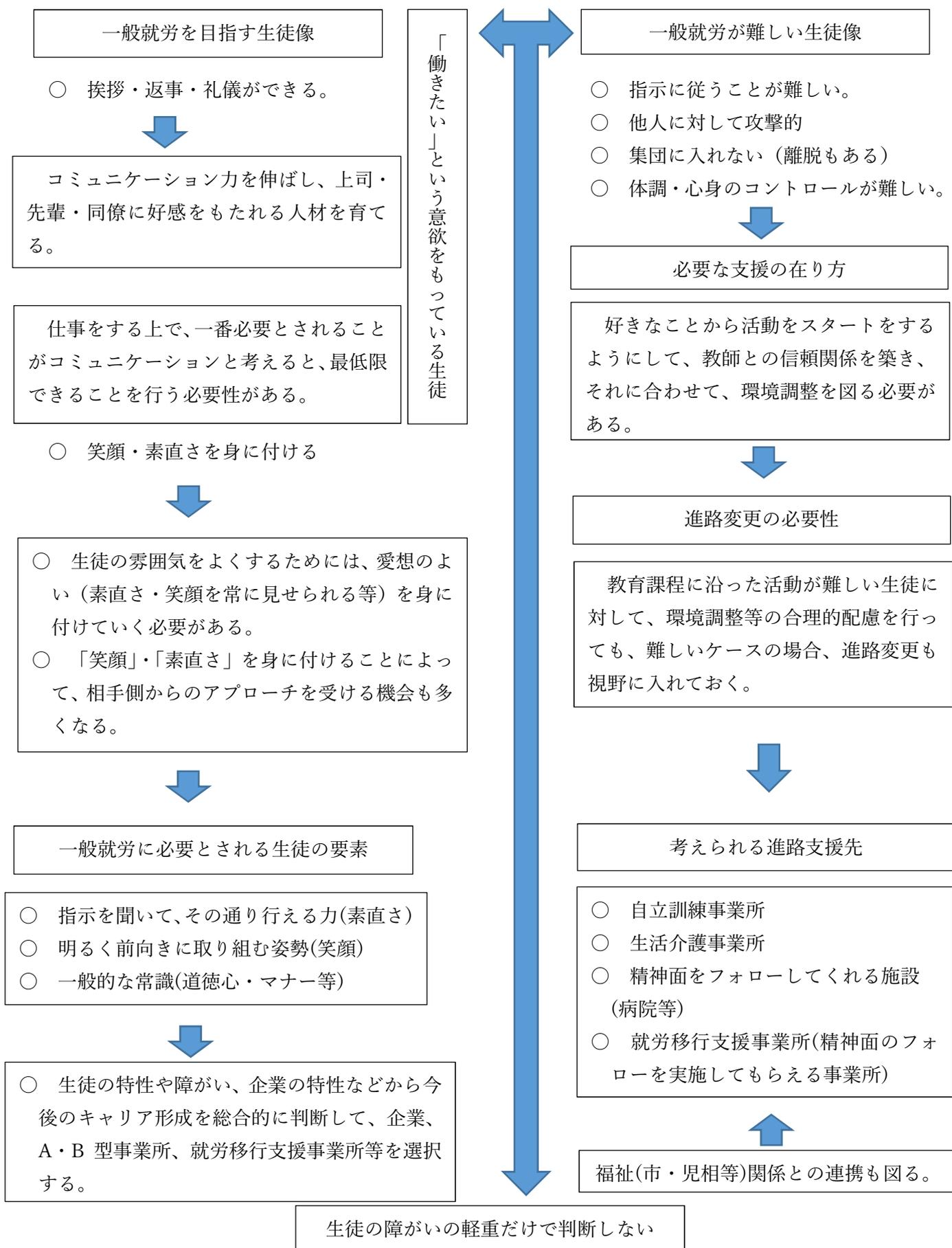
次年度については、GMOドリームウェーブ社との連携をより深める内容を提案して、取り組み成果として、今後活かせるようにしたい。

また、職業コース設置も検討しているところから今後より密になって、「企業等と共同開発する作業学習」設置研究班と「職業コース」研究班が連携して研究を進め、本校高等部生徒の「作業学習の編制・運営の在り方」を意図的・継続的にねらっていきたい。

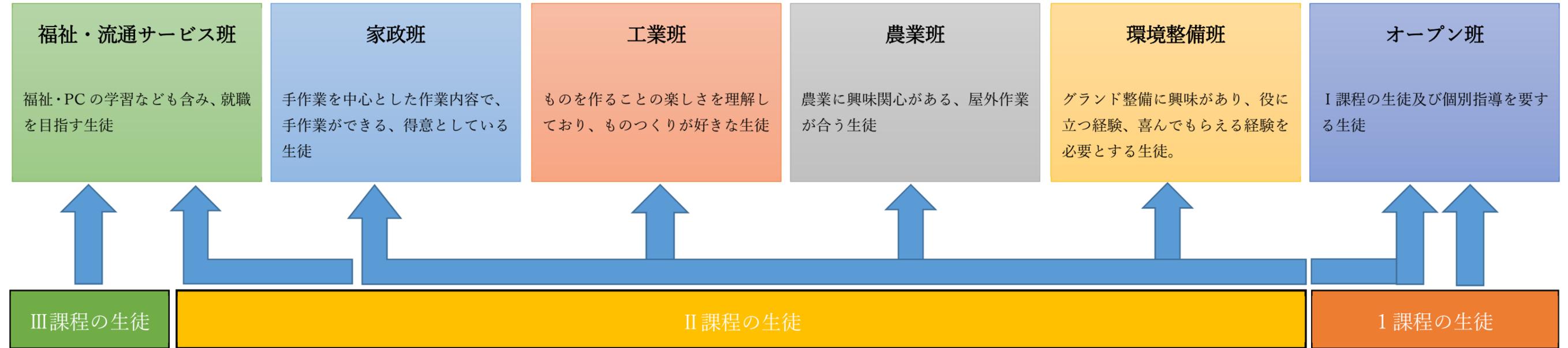
## 【引用・参考文献】

- 特別支援学校高等部学習指導要領 令和元年／文部科学省
- 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部） 令和2年／文部科学省
- 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（高等部）（上） 令和2年／文部科学省
- 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（高等部）（下） 令和2年／文部科学省

【 進路先を決定するために必要とされる教師側から見た生徒(Ⅱ・Ⅲ課程)像 】



2020年度の作業編成（案）



生徒の作業学習編成の考え方

|   |   |
|---|---|
| 1 | 前年度の作業学習を選択することができる。                                      |
| 2 | 生徒の希望と教師が生徒配置を考えるのを併用し、より生徒の実態に応じた作業選択を行うようにする。           |
| 3 | 作業編成を並列化して考えるようにするため、「スキルアップラーニング」の名称を廃止して、「出向」という形で実施する。 |

職員の作業学習編成の考え方

|   |  |
|---|--|
| 1 | 作業編成を6班とするため、T1は6名。福祉流通班については、職員配置3名以内               |
| 2 | 職員配置は、各班の生徒数に応じて設定する。                                |
| 3 | 環境整備班は、T1又はT2をグラウンド整備に保体部員が中心となって作業内容を考える。           |
| 4 | 作業班によっては、2つ以上に作業内容が分かれる場合、各担当者はT1扱いにして、担当授業時数に配慮を行う。 |

## 1 各作業部門の目標

|        |   |
|--------|---|
| 福祉・流通班 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 卒業後、働きたいという意欲があり、作業活動に積極的に取り組むことができる。</li> <li>○ 自ら学ぼうとする意欲をもち、協働的に取り組み、職業人として、必要な人間性を身に付けることができる。</li> <li>○ 基本的な仕事の仕組みが分かり、それに関連する技術を身に付けることができる。</li> </ul>                 |
| 家政班    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手作業を通して、それに関することについて理解するとともに関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>○ 意欲的に学習に取り組み、自ら課題を発見して、それを解決しようとする力を身に付けることができる。</li> <li>○ 作業活動に協働的に取り組み、職業人として、必要な人間性を身に付けることができる。</li> </ul>      |
| 工業班    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ものづくり活動を通して、それに関連することについて理解するとともに関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>○ 意欲的に学習に取り組み、自ら課題を発見して、それを解決しようとする力を身に付けることができる。</li> <li>○ 作業活動に協働的に取り組み、職業人として、必要な人間性を身に付けることができる。</li> </ul> |
| 農業班    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業に関することについて理解するとともに関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>○ 意欲的に学習に取り組み、自ら課題を発見して、それを解決しようとする力を身に付けることができる。</li> <li>○ 作業活動に協働的に取り組み、職業人として、必要な人間性を身に付けることができる。</li> </ul>              |
| 環境整備班  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 屋外作業に関することについて理解するとともに関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>○ 意欲的に学習に取り組み、自ら課題を発見して、それを解決しようとする力を身に付けることができる。</li> <li>○ 作業活動に協働的に取り組み、職業人として、必要な人間性を身に付けることができる。</li> </ul>            |
| オープン班  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師の支援を受けながら、様々な作業を行うことを通して、心理的な安定を図るとともに、社会生活への適応力を身に付けることができる。</li> </ul>   |

## 2 各作業部門の内容

|        |  |
|--------|--|
| 福祉・流通班 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 流通・サービス、メンテナンス、OA、福祉に関する基本的な学習</li> <li>○ 職業人として必要とされる基本的な学習</li> </ul> |
| 家政班    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手工芸・手織りに関する実践的・体験的な学習</li> </ul>  |

|       |  |
|-------|--|
|       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 受注請負に関する実践的・体験的な学習（和洋菓子の化粧箱組み立て等）</li> <li>○ 職業人として必要とされる基礎的な学習</li> </ul>                              |
| 工業班   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 木工・窯業に関する実践的・体験的な学習</li> <li>○ 職業人として必要とされる基礎的な学習</li> </ul>  |
| 農業班   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業に関する実践的・体験的な学習</li> <li>○ 職業人として必要とされる基礎的な学習</li> </ul>   |
| 環境整備班 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境整備に関する実践的・体験的な学習（グラウンド整備等）</li> <li>○ 卒業後に「働きたい」という意識をもたせる学習</li> <li>○ 職業人として必要とされる基礎的な学習</li> </ul> |
| オープン班 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内廊下等の清掃、印刷等軽作業の請負</li> <li>○ 体調や発作等に配慮を有する生徒への個別指導・支援を中心に自立活動の内容も取り入れた学習。</li> </ul>                   |

### 3 各作業班との関連と連携について

新しい作業編成を考える上で、最初に考えたことは、生徒の実態にどれくらい合わせられるかというところである。

Ⅲ課程生徒中心に行ってきた「流通・サービス班とメンテナンス班」については、福祉・流通班として、統合し、これまで多く就職してきた病院関係などの福祉についても学習を取り入れることにする。また、これから開拓していく就職先（企業）にも対応するために弾力的に運営ができるように、より幅広く考えながら、学習内容を考え、設定していくようにする。

手工芸、手織り、受注の各班を統合した「家政班」については、Ⅱ課程の生徒で、手先の作業を得意にしている生徒を中心に編成する。生徒が得意としているかどうかの判断は、教師の方で行うようにして、これまで生徒の希望で配置していた作業学習を教師が複数の目で判断して、取り組ませるようにする。

木工、窯業の各班を統合した「工業班」については、Ⅱ課程の生徒の中で「ものづくり」の楽しさを理解している生徒で編成する。製品の作成を行って、報酬を得ることの意味を理解できることも重要視する。また、道具を多く使用することから、道具の名前を覚えたり、置いてある場所を覚えたりすることができ、危険な道具や行為を理解している生徒を中心に編成するようにする。

農業班については、これまで屋外作業を希望する生徒全員が所属する形であったが、環境整備班を設置することにより、農業がしたいと考える生徒が所属できるようになる。農業のより専門的な作業を行うことができることが期待でき、作業に慣れることに時間を要する生徒たちにとっては、農業を中心とした進路先へスムーズに就労できる可能性が高まると考えられる。

環境整備班については、就労を目指すⅡ課程の生徒の中で、勤労に大切な「意欲を高めること」を期待して、働くことの意義や楽しさ、充実感を味わうことが必要な生徒で編成する。また、屋外作業を希望する生徒についても、希望を取り入れるようにして、編成を考えるようにする。

オープン班については、これまでの実績もあり、円滑に進めることができていることから、これまでの経験を踏襲して、学習内容や生徒編成を考えるようにする。

今後、教師の編成の仕方等、課題となる部分もあると思われるが、できる限り生徒の実態に合わせることを考えた作業編成になることを期待して、今後の作業学習の運営を行っていく。

## 福祉流通班について

### 1 目的

- 福祉、販売業務、OA、メンテナンスの4部門についての基礎的な学習を行い、生徒自身が自分に合った職業を選択させる機会をもたせる。
- 就職先で生徒が実習や仕事を円滑に行うことができるように班を設定する。

### 2 目標

- 就職先について、自分自身で自分に合ったものを選択し、就職に向けた努力をすることができる。
- 福祉や流通サービスについての基礎的な学習を行い、基礎・基本的な内容を実習・仕事で活かすことができる。

### 3 内容

- 介護福祉に関する用語やコミュニケーションの取り方、福祉業務の内容等、基本的な介護福祉の仕事について、学習を行う。
- 販売・接客業務に関する内容について、知識を深めるため、学習を行ったり、体験学習を行ったりして、基本的な販売業務の仕事について、学習を行う。
- ビルメンテナンスに関する道具や用語、清掃の仕方等について、学習を行い、基本的なビルメンテナンスについての学習を行う。
- 簡単なパソコン入力や Word、Excel の office ソフトの基礎を学習したり、それを活かした名刺づくりをしたりして販売を行うなど、基本的な OA 作業についての学習を行う。

|          |   |
|----------|---|
| 福祉       | <ul style="list-style-type: none"><li>○ 介護福祉に関する基本的な学習・体験的な学習</li><li>○ 介護福祉に関する知識・技能</li></ul>         |
| 販売業務     | <ul style="list-style-type: none"><li>○ 販売業務に関する基本的な学習・体験的な学習</li><li>○ 販売業に関する知識・技能</li></ul>          |
| ビルメンテナンス | <ul style="list-style-type: none"><li>○ ビルメンテナンスに関する基本的な学習・体験的な学習</li><li>○ ビルメンテナンスに関する知識・技能</li></ul> |
| OA 作業    | <ul style="list-style-type: none"><li>○ 簡単なパソコン入力・ソフトの基本的な扱い方</li><li>○ Word、Excel の基本的な知識・技能</li></ul> |

### 4 福祉・流通サービス班の設定の意義

近年、本校では、これまでの就職先として、病院やスーパー等へ就職する生徒が増えてきている。そこで、これまで流通・サービス班として行ってきた作業学習に、福祉に関する学習を取り入れ、生徒ができる限り見通しをもって実習や仕事に取り組むことができるように考えた。

また、簡単なパソコン作業を条件とした企業も増加傾向にあるため、新たに OA 作業を学習内容に取り入れることにした。OA 作業に興味・関心をもっている生徒も増えてきていることから、就職先として少しでも考えられるように考えた。

これまで流通・サービス班で行ってきた喫茶業務やメンテナンス等についても、再編を考えるようにして、より生徒が就職先を意識しやすい内容を考えて取り組ませるようにしたいと考えている。

## 環境整備班設置について

### 1 目的

- グラウンド整備等を行い、感謝の気持ちを伝えられる経験を多く得ることで、勤労することの楽しさや喜びなどを味わわせ、働くことについての基礎・基本を身に付けさせる。
- 卒業後の進路を考えた作業学習を考えた結果、屋外作業を取り入れた活動内容を行う。
- 生徒の実態に合わせて作業学習を考えた結果、身体を粗大に使い、作業の実践結果が見えやすいものを設定して、活動環境を整える。

### 2 目標

- グラウンド整備等の屋外整備作業を行い、勤労することの楽しさや喜びなどを味わって、働くことの基礎・基本を感じることができる。
- 身体を動かす作業を行い、勤労することの楽しさや充実感を味わい、働くことへの意識をもつことができる。

### 3 環境整備班の内容

|                       |                                      |
|-----------------------|--------------------------------------|
| ○ 年間を通してのグラウンド整備      | 芝刈り、ブラシ掛け、草取り、土入れ、トンボ慣らし、落ち葉拾いなど（冬季） |
| ○ 校内のスリッパを集めて、雑巾で拭く作業 | 雨天時や参観日後など                           |
| ○ 傘など、校内に散雑に置かれたものの整理 |                                      |
| ○ 校内の整理整頓             | 自転車置き場や階段下などの整理整頓                    |
| ○ 体育館の清掃              | 雨天時や他学部が使用していないとき                    |
| ○ 農場周辺の整備             | 草取りや芝刈り機を使った芝刈り                      |
| ○ 窓の清掃                | 雑巾や新聞紙、スクレーパー等を使って拭く                 |
| ○ 流し台の清掃              | 雨天時                                  |
| ○ 花壇の整備、花の育成          | 環境美化作業の一環                            |
| ○ 敷地内の側溝の清掃           | 一輪車、スコップ等を使った清掃作業                    |
| ○ 洗車                  | 雨天時                                  |
| ○ プール清掃               | プール使用に係る清掃・整備                        |

### 4 環境整備班の年間計画

| 月   | 4                  | 5     | 6 | 7         | 9 | 10 | 11 | 12 | 1          | 2         | 3 |
|-----|--------------------|-------|---|-----------|---|----|----|----|------------|-----------|---|
| 晴天時 | グラウンド整備<br>農場周辺の整備 |       |   |           |   |    |    |    | 花壇の整備、花の育成 |           |   |
|     |                    | プール清掃 |   | 敷地内の側溝の清掃 |   |    |    |    |            | 敷地内の側溝の清掃 |   |

## 環境整備班設置について

|     |                        |
|-----|------------------------|
| 雨天時 | 校内のスリッパを集めて、雑巾で拭く作業    |
|     | 傘の整理など、校内に散雑に置かれたものの整理 |
|     | 校内の整理整頓                |
|     | 体育館の清掃                 |
|     | 流し台の清掃                 |
|     | 窓の清掃 洗車                |

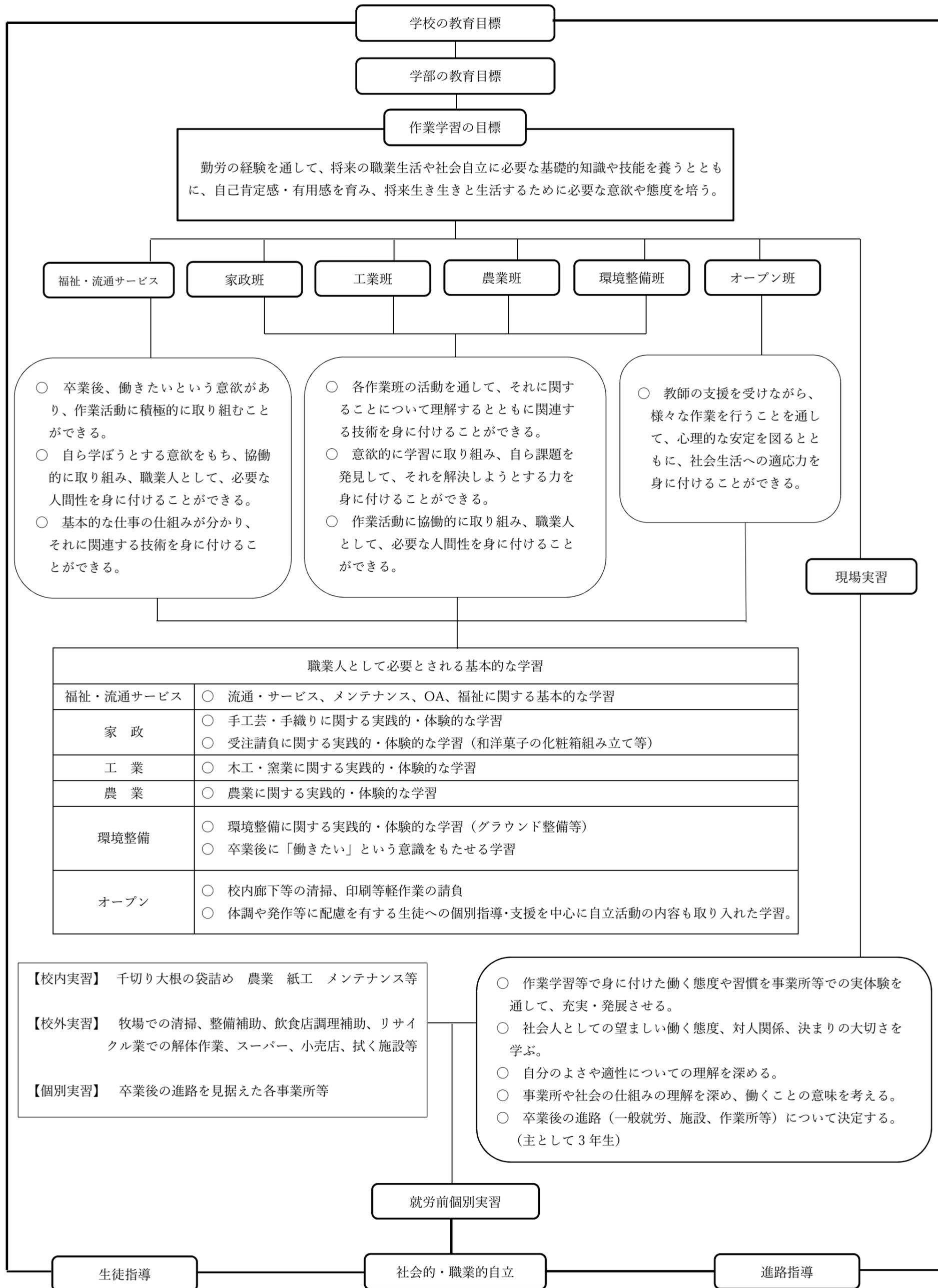


### 5 環境整備班設置の意義

本校の主にⅡ課程の生徒を中心とした進路先の一つとして、屋外作業を主な活動としている事業所へ進む生徒が見られる。Ⅱ課程の生徒については、作業に慣れるまでに時間を要する生徒も多くいて、屋外作業を希望している生徒への環境を整える必要があった。また、職業を意識するために他の人から、感謝の気持ちを伝えてもらえる等、「働きたい」と感じるための作業学習を設定することも必要と考えられた。さらに、Ⅱ課程では、障がいの程度、能力の違いなど、差が大きくなっており、生徒の多様性に応えるためにも身体を粗大に動かして実施できる作業班の設置の必要性があった。

そこで、校内整備という簡単な作業学習を設定して、それを行うことで、感謝の気持ちを直接伝えられ、結果として、校内が綺麗になることが目に見えることで、働く意義が感じられると捉えた。

特にグラウンド整備については、身体を粗大に動かすことでできる内容であり、一人でどの程度活動できるのかを見極めるためにも、有効であると考えられる。



| 高等部<br>年間指導計画         |   | 作業(福祉・流通サービス)  |                            | 年間指導<br>時数       |   |
|-----------------------|---|--|----------------------------|------------------|---|
| 指導目標<br>(つきたい力)       |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労の意義を自ら理解し、職業生活や社会自立に必要な基礎的知識や技能を高め、実践的な態度を育てる。</li> <li>・就労先について、自分に合ったものを選択し、就職に向けた努力をすることができる。</li> <li>・コミュニケーション能力を高め、周囲の人と協力して作業を進めることができる。</li> </ul>  |                            |                  |   |
| 種<br>目                | 内<br>容  | 目<br>標   | 指<br>導<br>の<br>手<br>立<br>て | 授<br>業<br>形<br>態 | 関<br>連<br>教<br>科<br>と<br>指<br>導<br>要<br>領<br>位<br>置<br>付<br>け |
|                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・チャレンジ検定</li> <li>・反省・まとめ</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業内容について知り、見通しを持つことができる。</li> <li>・作業で求められることを知り、作業学習での心構えを持つことができる。</li> <li>・チャレンジ検定に向けて個別の目標を設定し、技術を高めることができる。</li> <li>・チャレンジ検定の意味を理解して、検定を受け、自分の課題に気付くことができる。</li> <li>・自分の取り組みについて振り返り、反省をすることができる。</li> </ul>         |                            |                  |   |
| 流<br>通<br>・<br>O<br>A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンの基礎学習<br/>(ワード・エクセル)</li> <li>・金銭学習</li> <li>・各作業班の売り上げ、<br/>残高計算</li> <li>・各作業班の仕入れ、<br/>売り上げ、残高の入力</li> <li>・銀行での業務</li> <li>・流通業務に必要な文<br/>書の作成</li> <li>・作業班に必要なポス<br/>ターの作成</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的なワードやエクセルの使い方を覚える。</li> <li>・金銭について学び、実際に運用する際の留意点等を知ることができる。</li> <li>・売上金を適切に計算することができる。</li> <li>・必要に応じて受注の実績をコンピュータ等に入力することができる。</li> <li>・銀行での入金・出金の仕方について学び、実際に行うことができる。</li> <li>・注文票、ちらし等の作成を行うことができる。</li> </ul> |                            |                  |   |

|        |  |  |  |  |  |
|--------|--|--|--|--|--|
|        |  |  |  |  |  |
| メンテナンス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃の基礎学習</li> <li>・教室清掃</li> <li>・廊下清掃</li> <li>・階段清掃</li> <li>・トイレ清掃</li> <li>・窓清掃</li> <li>・フロア清掃</li> <li>・受注清掃<br/>(窓・廊下・教室)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各作業の内容と手順を覚えることができる。</li> <li>・道具の扱い方を覚えることができる。</li> <li>・道具の準備と片付け方を覚えることができる。</li> <li>・フロア清掃の内容と手順を覚えることができる。</li> <li>・効率の良い道具の扱い方を覚えることができる。</li> <li>・周りと協力して、効率の良い道具の準備と片付け方を覚えることができる。</li> <li>・注文票と広告を作成し、営業活動を行い、受注清掃を行う中で、サービス業を体感することができる。</li> <li>・校内で身につけた掃除の技術を校外でも実施することができる。</li> <li>・よりよいサービスの在り方について意見を出し合うことができる。</li> </ul> |  |  |  |

|    |   |  |  |  |  |
|----|---|--|--|--|--|
| 福祉 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉に関する基本的な学習</li> <li>・接遇（カフェの営業）</li> <li>・クリーニング作業</li> <li>・移動介助</li> <li>・ベッドメイキング（外部講師研修）</li> <li>・老人ホーム清掃</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉に関する基本的な内容を習得することができる。</li> <li>・ペアやグループでの作業を通して、連絡し合うことや意思の疎通を図りながら作業する大切さを身につけることができる。</li> <li>・カフェの営業を通して、言葉遣いや笑顔に気をつけた気持ちの良い接客を学ぶことができる。</li> <li>・クリーニング作業の受注開始から洗い、乾燥、仕上げ、配達までの一連の流れを理解することができる。</li> <li>・細かい汚れを注視したり、素材に応じた扱いに慣れたりすることができる。</li> <li>・車椅子の操作の仕方について知り、気持ちの良い移動介助をすることができる。</li> <li>・ベッドメイキング講習を通して、効率のよい作業のやり方を学ぶことができる。</li> <li>・老人ホーム清掃の手順を覚え、マナーを守って清掃する。</li> </ul> |  |  |  |
|----|---|--|--|--|--|

※授業形態 ①一斉 ②グループ ③個別

作業計画

|           | 4 | 5 | 6 | 7   | 9       | 10 | 11 | 12  | 1 | 2 | 3   |
|-----------|---|---|---|-----|---------|----|----|-----|---|---|-----|
| オリエンテーション |   |   |   |     |         |    |    |     |   |   |     |
|           |   |   |   | まとめ |         |    |    | まとめ |   |   | まとめ |
|           |   |   |   |     | チャレンジ検定 |    |    |     |   |   |     |

|                            |   |
|----------------------------|---|
| 流通<br>・<br>O<br>A          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パソコンの基礎学習（適宜）<br/>（ワード・エクセル）</li> <li>・ 金銭学習（適宜） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各作業班の売り上げ、残高計算</li> <li>・ 各作業班の仕入れ、売り上げ、残高の入力</li> <li>・ 銀行での業務</li> <li>・ 流通業務に必要な文書の作成</li> <li>・ 作業班に必要なポスターの作成</li> </ul> </li> </ul>   |
| メ<br>ン<br>テ<br>ナ<br>ン<br>ス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清掃の基礎学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室清掃 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廊下清掃</li> <li>・ 階段清掃 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トイレ清掃</li> <li>・ 窓清掃</li> <li>・ フロア清掃</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <li>・ 受注清掃（窓・廊下・教室）</li>  |
| 福<br>祉                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉に関する基本的な学習（適宜）</li> <li>・ 移動介助</li> <li>・ 接遇（カフェの営業）</li> <li>・ 接遇（カフェの営業）</li> <li>・ クリーニング作業</li> <li>・ ベッドメイキング（外部講師研修）</li> <li>・ 老人ホーム清掃（老人ホームの受け入れに合わせて）</li> </ul>    |

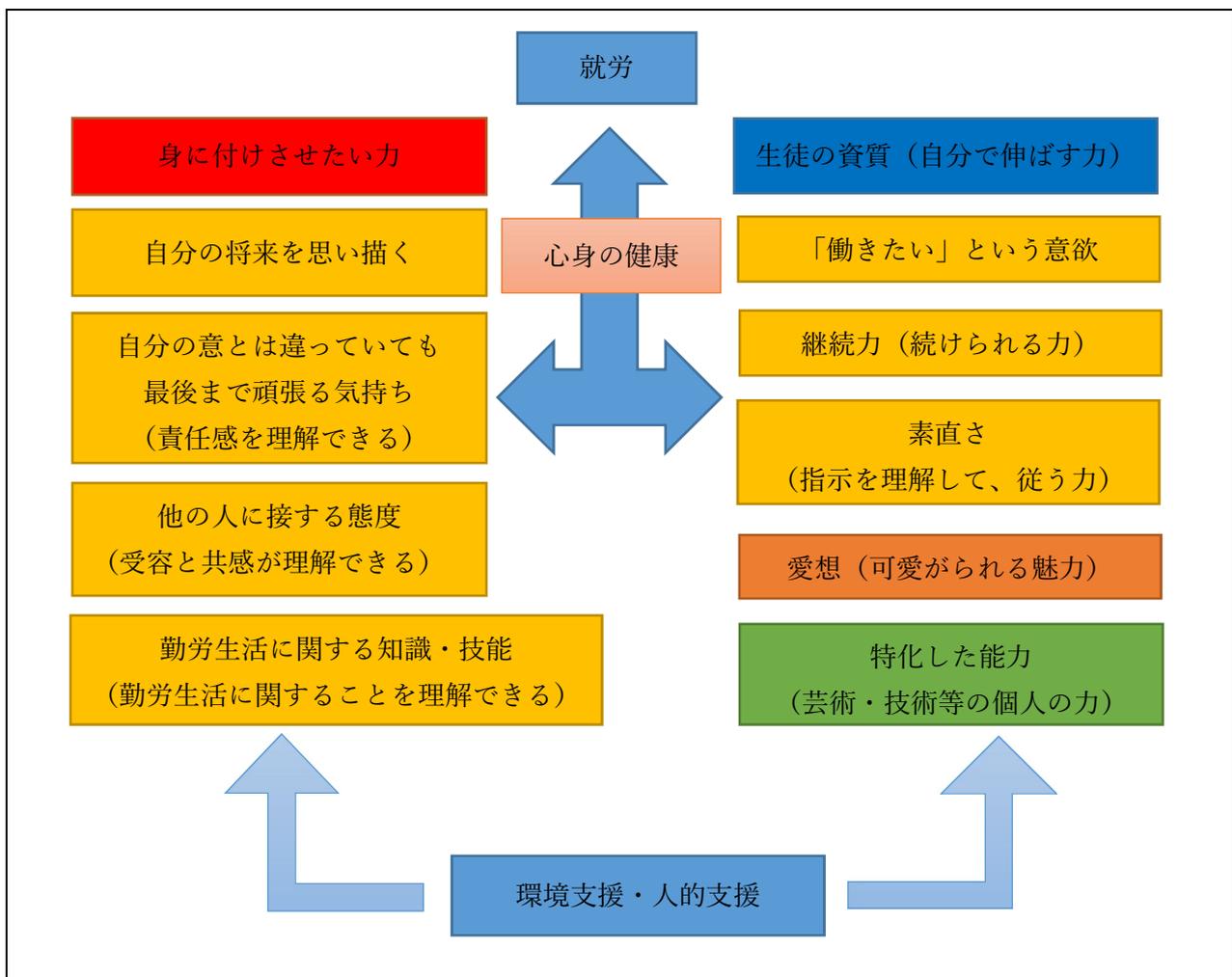
○ 作業学習研究班で検討したいこと

★ 福祉・流通班の生徒編成について

現在、本校では、福祉・流通班では、主にⅢ課程の生徒を中心に編成するようになっている。ここで、さらに弾力性をもたせるために、福祉・流通班の生徒を編成する際の基準についても考え、Ⅲ課程の生徒の基準と照らし合わせて、さらに複数の目による編成ができないかを考えた。

前年度、作業研究班では、どのような生徒を企業側が採用してくれるかを話し合った際に、①真面目に一生懸命取り組むこと②誰からも親身にしてもらえる愛想がよいこと③ある程度のコミュニケーション能力との意見が出た。この3つを中心とした基準を考えるとともにさらに必要となる力について協議・検討を図り、研究を進めることにしたい。

○ 一般就労を目指す生徒の関連図（一般就労をした生徒の例より）



○ 福祉・流通班に所属する生徒の基準

作業学習からみた一般就労を目指す生徒について、「身に付けさせたい力」と「生徒個人の資質」を関連図に示して、どのような力を高等部3年間で身に付けさせたいのかを図式化した。

この中から福祉・流通班の基準としては、「生徒の資質」を参考にして、所属させることを考え、その中で、身に付けさせたい力を備えることができるようにしたいと考える。そこから職員間で共通理解できるように研究を深めるようにする。

◎ 今年度作業を実施する中での問題点（福祉・流通班）

○ （全般的作業内容におけるものの中からピックアップした）を実施する中での問題点

| 作業内容                   | 生徒の様子   | 作業設定の理由  | 作業の評価点   |
|------------------------|---|--|--|
| （福祉）<br>ベッド清掃<br>シーツ交換 | ベッド清掃やシーツ交換のやり方について、熱心に学習することができた。また、ベッド清掃の実践をすることで、清掃の留意点ややり方を確認することができた。  | ベッド清掃やシーツ交換の講習を通して、効率のよい作業のやり方を学ぶことができる。           | 養護教諭の指導・協力のもと、ベッド清掃に取り組むことができたが、設備の関係で、シーツ交換の実践まで行うことができなかつた。コロナの影響で、計画していた福祉施設職員による指導や訪問を実施することができず、動画での指導を行った。 |
| （福祉）<br>車いす操作          | 動画や教科書で操作の仕方を確認し、プリントに熱心にまとめたり、実践に参加することができた。回数を重ねるにつれ、車いすの操作の仕方や言葉かけが上達した。 | 車椅子の操作の仕方について学習後、実技を行うことで、気持ちの良い移動介助について考えることができる。 | 他の作業や車いすの台数の関係で一斉指導は難しかった。そのため、2グループに分け、実践した。  |
| （福祉）<br>接客             | お茶の出し方等について、ロールプレイング等に熱心に取り組んだ。しかし、学習回数も少なく、定着に個人差があった。                     | カフェの営業を通して、言葉遣いや笑顔に気をつけた気持ちの良い接客を学ぶことができる。         | コロナの影響で、計画していたカフェの営業が難しく、教科書やロールプレイングを通して、お茶の出し方等を学習した。  |

○ 改善策

- ・OA やメンテナンス担当と連携し、グループ分けをして、指導が行き届くような学習形態をとる。
- ・福祉の職場で働く卒業生の話や福祉施設職員の仕事の動画撮影等を行い、教材開発を行う。

◎ 新しく取り入れた内容

○ （作業内容を新しく取り入れたたり、取りやめたりした内容についての）実施内容

| 作業内容         | 生徒の様子  | 作業設定の理由                                    | 作業の評価点                                       |
|--------------|--|--|--|
| 福祉に関する基本的な学習 | 教科書や動画での学習の大切な点をプリントにまとめる、福祉の基礎的内容を知ることができた。 | 福祉に関する基本的な内容を習得することができる。                   | 教科書や動画での学習の大切な点をプリントにまとめる、福祉の基礎的内容を知ることができた。 |
| 老人ホーム清掃      | 動画を見て学んだものの、実践していないため、習得は難しかったように感じた。        | 老人ホーム清掃の手順を覚え、マナーを守って清掃することで、職場で生かすことができる。 | コロナの影響で、計画していた老人ホームの清掃を行うことができず、やり方を動画で視聴した。 |

## 「企業と共同して取り組む作業学習の開発」実施計画

みやざき中央支援学校高等部

### 1 企業からみた生徒に必要とされる資質について

| 目 的   | 内 容   |
|---|---|
| ① 卒業後、必要とされる生徒の資質について協議、検討を行い、内容を明確化する。<br>② 様々な生徒に合わせる事ができるものを目指し、内容検討を図る。 | ① 現在、働いている方の資質や本校の生徒の資質等を照らし合わせて、必要な資質について協議、検討を行い、明確化する。<br>② 現在、働いている方の課題や問題点を探り、本校の生徒の現状と照らし合わせて、今後、必要とされる資質について明確化する。 |

### 2 企業からみた必要とされる作業学習（OA班）の内容について

| 目 的  | 内 容   |
|--|---|
| ① 卒業後、生徒の資質向上を図るための作業学習（OA班）の内容について、詳細な作業設定を行うために協議、検討を行い、今後の作業学習（OA班）の実践に活かす。<br>② 作業学習（OA班）についての意見を伺い、協議、検討を進め、より実践的な作業学習（OA班）の編制に活かす。 | ① 現在の作業学習（OA班）の内容と働いている方の内容等を照らし合わせ、必要とされる作業学習（OA班）の在り方を考える。<br>② 現在、働いている方の様子を伺い、今後生徒が身に付けていった方がよいと考えられる学習内容について、検討する。 |

### 3 企業で採用する（してみたいと思わせる）生徒の実際について

| 目 的   | 内 容  |
|---|--|
| ① 卒業後、就職を目指すための生徒の資質を明確化し、今後の生徒の指導支援を図るため、本校職員間で共通理解を図る。<br>② 実際に働いている方の例をお聞きして、採用をする際に生徒のどの資質を重視しているか、どのような生徒を採用したいかを協議して、本校職員間で共通理解を図る。 | ① 実際に働いている方の様子を伺い、生徒の課題や問題点について系統化して、明確化する。<br>② 実際に採用する際の見方をお聞きして、今後の生徒の指導支援に活かす。 |

### 4 生徒への講話について

| 目 的  | 内 容  |
|--|--|
| 採用する側の立場からの生徒の資質について講話をしていただき、生徒に卒業後の見通しをもたせる。 | 業務内容や働いている方の実際の様子等を話していただき、生徒が進路のことを考えるきっかけとなるように話をしていただく。 |

## 「企業と共同して取り組む作業学習の開発」実施報告

みやざき中央支援学校高等部

### 1 企業からみた生徒に必要とされる資質について

#### (1) 目的

- ① 卒業後、必要とされる生徒の資質について協議、検討を行い、内容を明確化する。
- ② 様々な生徒に合わせることが出来るものを目指し、内容検討を図る。

#### (2) 内容

- ① 現在、働いている方の資質や本校の生徒の資質等を照らし合わせて、必要な資質について協議、検討を行い、明確化する。
- ② 現在、働いている方の課題や問題点を探り、本校の生徒の現状と照らし合わせて、今後、必要とされる資質について明確化する。

#### (3) 研究の実際

- ① 卒業後（就職後）必要とする力について
  - ア コミュニケーション力（協力・協調性）
  - イ 自分から発信する力（対面・チャット・ズームでの対応力）
  - ウ 注意力（欠陥品を見つける等、検品できる力）
  - エ 根気（最後まで続けることができる力）
  - オ 責任感（納期、予定、約束を守る力）

#### (4) 成果と課題

- ① 成果
  - ア 企業では、職種に関係なく、自分から発信する力、協力、協調性等、コミュニケーション力が不可欠であることを再認識。
  - イ 生徒の自己理解が大切であることの再認識。
- ② 課題
  - ア IT関連会社のイメージを職員間で共通理解し、職種に関わらず、コミュニケーション力を最優先にした生徒の指導を行っていくこと。
  - イ 生徒の自己理解を深めるため、どのような支援、指導を行っていくか、職員間での共通理解を深めること。

### 2 企業からみた必要とされる作業学習（OA班）の内容について

#### (1) 目的

- ① 卒業後、生徒の資質向上を図るための作業学習（OA班）の内容について、詳細な作業設定を行うために協議、検討を行い、今後の作業学習（OA班）の実践に活かす。
- ② 作業学習（OA班）についての意見を伺い、協議、検討を進め、より実践的な作業学習（OA班）の編制に活かす。

#### (2) 内容

- ① 現在の作業学習（OA班）の内容と働いている方の内容等を照らし合わせ、必要とされる作

業学習（OA 班）の在り方を考える。

- ② 現在、働いている方の様子を伺い、今後生徒が身に付けていった方がよいと考えられる学習内容について、検討する。

(3) 研究の実際

- ① Word Excel の基本的な内容を実践の継続
- ② 説明を受けて、そこに注意を向け、実際に行える力の育成
- ③ リモートでも仕事ができる力（一人の環境でも、自己管理して取り組む力）の育成
- ④ 課題に向けて、努力する姿勢をもつことができる力の育成。

(4) 成果と課題

① 成果

ア パソコンの基本的な内容を今後も学習する。

イ パソコンに興味・関心をもたせることにより、自信をもって作業に取り組めるように努力する姿勢を身に付けさせることができる。

② 課題

ア 特に突出したスキルは必要としないので、協力、協調性を持ち、コミュニケーションをとりながら実践できる課題の提示。

イ パワーポイント等を利用して発信力を育て、協力をして、一つのものを作成するなど、協調性と発信力を取り入れた課題の提示。

ウ 説明に対して、メモを取ることはできるが、そのメモを活用することができていない。

3 企業で採用する（してみたいと思わせる）生徒の実際について

(1) 目的

- ① 卒業後、就職を目指すための生徒の資質を明確化し、今後の生徒の指導支援を図るため、本校職員間で共通理解を図る。
- ② 実際に働いている方の例をお聞きして、採用をする際に生徒のどの資質を重視しているか、どのような生徒を採用したいかを協議して、本校職員間で共通理解を図る。

(2) 内容

- ① 実際に働いている方の様子を伺い、生徒の課題や問題点について系統化して、明確化する。
- ② 実際に採用する際の見方をお聞きして、今後の生徒の指導支援に活かす。

(3) 研究の実際

(4) 成果と課題

4 生徒への講話について

| 目的   | 内容   |
|--|--|
| 採用する側の立場からの生徒の資質について講話をしていただき、生徒に卒業後の見通しをもたせる。 | 業務内容や働いている方の実際の様子等を話していただき、生徒が進路のことを考えるきっかけとなるように話をしていただく。 |

|                |   |
|----------------|---|
| チーム名           | キャリア教育研究班   |
| 研究テーマ          | キャリア教育における一貫した指導を目指して（3年次）  |
| テーマ設定理由        | 「キャリア教育に関する実態評価表（試案）」の内容の見直しと活用方法の検討を行い、小・中・高の全学部において同じ評価表を活用し、指導に生かすことで系統的な取組を通じたキャリア教育の充実を目指す。  |
| 研究の方法          | <p>○各学級1名の児童生徒を対象とし、「キャリア教育に関する実態評価表」を用いて実際に評価を行う。</p> <p>○評価表の内容や活用方法について各学部で意見集約を行う。</p> <p>○集約した意見をもとに、再度、評価表の内容の見直しを行ったり、活用方法についての検討を行ったりして、次年度の完全施行に向けて整備していく。</p> <p>○教務部及び関係の各分掌部や各学部との連携を図る。</p>  |
| 研究の実際          | <p>1 職員全体研修の実施</p> <p>(1) 「キャリア教育に関する実態評価表」（以下、「評価表」）の試行的取組</p> <p>ア 「評価表」の目的や活用方法等について全職員で共通理解を図った。</p> <p>イ 「評価表」を実際に全職員で評価し、経験した。</p> <p>各学級1名の児童生徒を抽出して、学担及び副担等のペアで評価を付けていった。</p> <p>ウ 評価実施後に「評価表」についての意見収集を行い、学部ごとに課題を整理した。</p> <p>2 「評価表」の見直し</p> <p>(1) 学部で出された意見をもとに、「評価表」の各項目の各段階の内容について主に以下の観点で見直しを行った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○評価しやすい内容になっているか。具体的に表現されているか。</p> <p>○学習指導要領の「段階の考え方」に沿った段階的な内容になっているか。</p> <p>○高等部卒業後の将来を想定したときに求められる力を考慮した内容であるか。</p> </div> <p>3 運用面に関する協議</p> <p>次年度から、全学部で「評価表」を活用していくために「評価表」そのものの管理・運用を位置付けておく必要があるため、各学部で適切な管轄の方法について協議を行った。</p> |
| 成果と課題<br>(まとめ) | <p>1 成果</p> <p>○ 全職員で「評価表」を実際に付ける研修を行ったことで、様々な視点からの意見が出され、課題を整理することができ「評価表」の更なる見直しを行い改善することができた。</p> <p>○ 学校全体で統一してこの「評価表」を活用することで、今後、小学部から高等部まで一貫したキャリア教育が行えることが期待できる。</p> <p>2 課題</p> <p>● 小学部段階の児童や障がいの重い生徒については、変容が見えにくいのではないか。</p> <p>● 実際に「評価表」を活用していく中での様々な問題点等の検証。</p>  |

| チーム名   | 保健体育研究班  |   |  |                  |                   |                     |               |           |           |                       |                 |                           |  |   |   |
|--|--|---|--|------------------|-------------------|---------------------|---------------|-----------|-----------|-----------------------|-----------------|---------------------------|--|---|---|
| 研究テーマ  | 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習の在り方   |   |  |                  |                   |                     |               |           |           |                       |                 |                           |  |   |   |
| テーマ設定理由  | 保健体育科学習において、カリキュラム・マネジメントや指導方法の工夫を行い、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を展開できれば、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することができるであろう。   |   |  |                  |                   |                     |               |           |           |                       |                 |                           |  |   |   |
| 研究の方法  | <p>『主体的・対話的で深い学びを実現する授業の在り方』</p> <p>「第59回九州地区学校体育研究発表大会 宮崎大会」にて授業発表</p> <p>(1) カリキュラム・マネジメントの工夫</p> <p>① 「体づくり運動」における、保健分野・体育理論と関連性を明確にした単元計画の作成</p> <p>(2) 指導方法の工夫</p> <p>① 体づくり運動実践事例集 (ひなたプログラムの作成、活用)</p> <p>② 思考力、判断力、表現力等を育成するための学習カードの工夫</p>  |   |  |                  |                   |                     |               |           |           |                       |                 |                           |  |   |   |
| 研究の実際  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>1年 (入学年次) / 10時間</th> <th>2年 (その次の年次) / 7時間</th> <th>3年 (それ以降の年次) / 10時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「総復習 (学びなおし)」</td> <td>○集団 (チーム)</td> <td>○個人 (実態別)</td> </tr> <tr> <td>「日常的に取り組める運動の計画を立てよう」</td> <td>「手軽に行える運動を考えよう」</td> <td>「実生活に生かすことができる運動の計画を立てよう」</td> </tr> <tr> <td>○レディネステスト (アンケート)<br/>○体力テスト<br/>○健康チェックカード<br/>○復習 (学びなおし)<br/>○家庭との連携 (保護者アンケート)<br/>○長期休暇健康チェックカード</td> <td>○体力テスト<br/>○健康カード<br/>○「タオル」を使った運動<br/>○家庭との連携<br/>○長期休暇「やったぜ! カード」</td> <td>○体力テスト ○健康カード<br/>○家庭との連携<br/>○長期休暇「やったぜ! カード」<br/>○知識に関する学習<br/>○「実生活への取り入れ方」<br/>○それぞれのねらいに応じた運動の計画を立て実践する。<br/>○卒業後の体重カレンダーの配布</td> </tr> </tbody> </table> |   |  | 1年 (入学年次) / 10時間 | 2年 (その次の年次) / 7時間 | 3年 (それ以降の年次) / 10時間 | 「総復習 (学びなおし)」 | ○集団 (チーム) | ○個人 (実態別) | 「日常的に取り組める運動の計画を立てよう」 | 「手軽に行える運動を考えよう」 | 「実生活に生かすことができる運動の計画を立てよう」 | ○レディネステスト (アンケート)<br>○体力テスト<br>○健康チェックカード<br>○復習 (学びなおし)<br>○家庭との連携 (保護者アンケート)<br>○長期休暇健康チェックカード | ○体力テスト<br>○健康カード<br>○「タオル」を使った運動<br>○家庭との連携<br>○長期休暇「やったぜ! カード」 | ○体力テスト ○健康カード<br>○家庭との連携<br>○長期休暇「やったぜ! カード」<br>○知識に関する学習<br>○「実生活への取り入れ方」<br>○それぞれのねらいに応じた運動の計画を立て実践する。<br>○卒業後の体重カレンダーの配布 |
| 1年 (入学年次) / 10時間   | 2年 (その次の年次) / 7時間  | 3年 (それ以降の年次) / 10時間   |  |                  |                   |                     |               |           |           |                       |                 |                           |  |   |   |
| 「総復習 (学びなおし)」  | ○集団 (チーム)  | ○個人 (実態別)   |  |                  |                   |                     |               |           |           |                       |                 |                           |  |   |   |
| 「日常的に取り組める運動の計画を立てよう」  | 「手軽に行える運動を考えよう」  | 「実生活に生かすことができる運動の計画を立てよう」   |  |                  |                   |                     |               |           |           |                       |                 |                           |  |   |   |
| ○レディネステスト (アンケート)<br>○体力テスト<br>○健康チェックカード<br>○復習 (学びなおし)<br>○家庭との連携 (保護者アンケート)<br>○長期休暇健康チェックカード | ○体力テスト<br>○健康カード<br>○「タオル」を使った運動<br>○家庭との連携<br>○長期休暇「やったぜ! カード」  | ○体力テスト ○健康カード<br>○家庭との連携<br>○長期休暇「やったぜ! カード」<br>○知識に関する学習<br>○「実生活への取り入れ方」<br>○それぞれのねらいに応じた運動の計画を立て実践する。<br>○卒業後の体重カレンダーの配布 |  |                  |                   |                     |               |           |           |                       |                 |                           |  |   |   |
| 成果と課題 (まとめ)  | <p>○100種類の運動の動画集と事例集を作成し、授業で活用したことで生徒の興味・関心が高まり、主体的な活動へと高めることができた。</p> <p>○自宅で行える運動を生徒の実態に応じながら3種類考え、長期休業中に取り組ませた。保護者とも連携することで、全員が取り組むことができた。</p> <p>●運動を行うための意識の変化の追跡調査。</p>  |   |  |                  |                   |                     |               |           |           |                       |                 |                           |  |   |   |

|         |   |
|---------|---|
| チーム名    | プログラミング教育研究班  |
| 研究テーマ   | プログラミング的な考え方を育てる授業づくり   |
| テーマ設定理由 | <p>情報技術が急激な進展を遂げ、これからを生きる児童にとって情報機器や情報を適切に選択・活用していく力や主体的な課題解決能力が必要となる。</p> <p>そこで、児童一人一人の発達段階に応じたプログラミング教育を実践することで、日常生活上の課題に関連づけた目標を達成できるのではないかと考えた。そのため学習計画、教材研究、指導形態等を検討し実践する。</p>  |
| 研究の方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各児童の個別の指導計画と関連づけた目標の設定、目標達成のための指導計画作成、教材教具の開発、実施、評価を行っていく。</li> <li>○ 毎週火曜日の5、6校時を6学年合同学習として設定し、プログラミング教育を実践していく。</li> </ul>   |
| 研究の実際   | <p>&lt;1学期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1学期はICT機器を使用しない方法（アンプラグド）でプログラミングの基本的な考え方を身につける学習をした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 提示された番号札に従って順番に並べる活動。</li> <li>② 提示された番号の順番に箱を積み上げる活動。</li> <li>③ カード（矢印などの記号、文、写真）を見ながら校内のゴールを目指す活動。</li> <li>④ 「まわる」「キック」「あしぶみ」など5種類のカードを組み合わせでダンスをつくり踊る活動。</li> <li>⑤ NHKのコンピューターを使わずにプログラミング的思考を育む番組「テキシコー」の視聴。</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;2～3学期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2学期は児童の実態ごとにグループを分けて活動した。Aグループは主にアリロやコーディーロッキーなどの機器を使った活動、Bグループは実態に応じてタブレットやパソコン、コピー機や印刷機等の機器を使った活動、またプログラミング的な考え方を身につけるボードゲームやプリントを使用した活動を行った。</li> </ul> <p>(Aグループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① アリロを使った活動では、いろいろな動きのパネルを組み合わせで動かしたり、タブレットを操作して動かしたりする活動。</li> <li>② コーディーロッキーを使った活動では、タブレット内で「前に進む」「止まる」「右を向く」などのブロックを組み合わせで動きをプログラムして動かす活動。</li> </ul> <p>(Bグループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① タブレットを起動してそれぞれの課題に応じたアプリを選択して行う活動（文字の練習、声を出す練習など）。</li> <li>② コピー機や印刷機を使って簡単な作業をする活動。</li> <li>③ 前後左右を意識しながら自分自身で動いてみたり、機器を操作したりする活動。</li> </ul> |

|                        |   |
|------------------------|---|
|                        | <p>④ パソコンの起動、好きなキャラクター等の検索、プリントアウト、パソコンのシャットダウンなどの一連の作業。</p> <p>⑤ いくつかの活動の項目を自分で並べ、自分で見通しをもって行動する活動。</p> <p>⑥ ボードゲームをとおして、プログラミング教育の基礎となる前後左右の理解、物の位置や空間の認識などといった方向の概念の習得を図る活動。</p>   |
| <p>成果と課題<br/>(まとめ)</p> | <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT機器を使用しなくてもプログラミング的な考え方を学ぶ方法があることが分かった。</li> <li>○ Aグループの児童が、ブロックの操作を学ぶ場では、何度も説明しなくても体験をとおして操作を理解することができた。コーディーロッキーを操作するときは、はじめにミニコース（紙面）で思考してから3×3マスのコースの中でイメージ通りに移動できるか試行した。はじめは、手や頭を動かしながら考えていたが、体験を積み重ねることによって頭の中で考えることができるようになってきた。</li> <li>○ 個別の指導計画に沿った目標の設定や指導計画の作成を行ったことで、児童一人一人の学習内容の見通しをもつことができた。</li> <li>○ 振り返りの時間に自分たちが取り組んだ課題を発表したあと、テキシコーカード（4段階にレベルアップ）にシールを貼ることで、意欲をもつことができた。</li> <li>● 一人一人の課題に応じたICT機器やアプリなどの選定が大切であると感じた。</li> <li>● ICT機器操作能力の高さと日常生活動作能力の低さとのギャップをどう埋めるのか課題である。</li> <li>● 教材としてのICT機器を使うことのできる環境整備の充実が求められる。</li> <li>● これからの日常の生活を考えると、タッチパネルでの券の購入、食事の注文、セルフレジなどの経験もさせたい。</li> </ul> |

|                |  |
|----------------|--|
| チーム名           | 小学部 年間指導計画見直し班   |
| 研究テーマ          | 新しい学習指導要領に対応した年間指導計画の見直し   |
| テーマ設定理由        | 現在の小学部年間指導計画は、平成24年に見直しされたものである。これ以降に出された学習指導要領(平成30年3月)に照らし合わせて目標や内容等の見直しを行い、運用等全般的に見直しを行うためにテーマを設定した。  |
| 研究の方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現年間指導計画について、見直しが必要な項目の洗い出し</li> <li>○ 項目毎のチーフ決定</li> <li>○ チーフ提案による各項目の見直し作業</li> <li>○ 学部へのアンケート実施</li> <li>○ 年計の体裁についての検討</li> <li>○ データ作成作業</li> <li>○ データのまとめ、印刷・製本</li> </ul>  |
| 研究の実際          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間計画全体の体裁の見直し <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学部職員にアンケートを実施。その結果と班内での話し合いを経て、各学級、音楽、体育、特活、性教育の年間指導計画一覧表、生活、国語、算数、音楽、図工、体育、外国語の内容表についてはデータでの保存に変更した。また、道徳別葉、日生、生単の内容表については、冊子を作成し、クラス1冊ずつの配布に変更した(音楽の年計の詳細については、“音楽年計・教材作成班”参照)。</li> </ul> </li> <li>2. みやざき中央支援学校「小学部の年間指導計画」についての見直し <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年計全体の説明である“みやざき中央支援学校「小学部の年間指導計画」について”を見直し、運用方法や管理の仕方について明確にした。</li> </ul> </li> <li>3. 中扉の見直し、作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年計冊子の形態変更に伴い、表紙や中扉の変更を行った。</li> </ul> </li> <li>4. 各学級の一覧表保存期間についての検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年生が卒業するまでとして6年間保存。経過後は学部教務が1年分ずつ削除することとした。</li> </ul> </li> <li>5. 内容表について <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活、国語、算数、音楽、図工、体育、外国語について、平成30宮崎県教育研修センターの「知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科(段階表)」をデータとして保存することとした。</li> <li>・ 外国語を新たに挿入した。</li> </ul> </li> <li>○ 道徳別葉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低・中・高別立てから全学年を一つの表にまとめ、内容の見直しを行った。</li> <li>・ 生単枠について、生単内容表の道徳項目とリンクするように整理した。</li> </ul> </li> <li>○ 日常生活の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症対策の観点も盛り込んで、内容表全体を見直した。</li> </ul> </li> <li>○ 生活単元学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全単元の一覧表を作成した。</li> <li>・ 目標の観点変更による目標の見直し、学習内容全般の見直しを行った。</li> <li>・ “本単元の学習指導要領での項目”から“本単元に含まれる各教科等の内容”に変更、記載内容の見直しを行った。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol> |
| 成果と課題<br>(まとめ) | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 新学習指導要領や新しい生活様式に基づいて、全体を見直すことができた。</li> <li>◎ アンケートを元に協議することで、より活用しやすい年間計画の体裁を考えることができた。</li> </ul>   |

- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>◎ 書式や文言などを統一したことで、より見やすく分かりやすい年間計画ができた。</li><li>◎ 校内研で取り組むことで、検討や作業の時間を確保することができた。</li><li>● 少人数での見直しとなったので、年間計画全体を見直すには時間が足りなかった。また、変更した内容に偏りがいないか、整合性はあるかなど客観的に判断することが難しかった。</li><li>● 実際に使用していく中で、変更点や改善した方が良い点など出てくることが予想される。来年度以降、実際に運用しながら変更、改善していく必要がある。</li></ul> |
|--|---|

|         |   |
|---------|---|
| チーム名    | 音楽年計・教材作成班  |
| 研究テーマ   | 児童の学びを広げる音楽科の授業について<br>～新学習指導要領に対応した年間指導計画の作成～  |
| テーマ設定理由 | 小学部は、教育課程に音楽を1～3学年は週1時間、4～6学年は週2時間設定しており、毎年作成している年間指導計画に沿って、学年別のグループで授業を実施している。しかし、令和2年度から新学習指導要領の全面实施（小学部）となっているものの、現在の音楽の年間指導計画は前回の学習指導要領に沿ったものとなっている。そこで、新学習指導要領に示された音楽科の目標や内容等に対応した授業づくりについて、年間指導計画の見直しを踏まえて検討していく必要があると考え、本テーマを設定した。   |
| 研究の方法   | ① 年間指導計画の作成      ② 教材作成   |
| 研究の実際   | <p>① 年間指導計画の作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新学習指導要領の音楽科の目標や内容の理解</li> <li>○ 年間指導計画の様式の検討</li> </ul> <p>目標については、特別支援学校の音楽の目標を表記し、児童が目指す姿が分かるようにした。また、表現及び鑑賞の領域のどの内容を学習するかを示す欄も設けた。新設された共通事項の表記については、専門的な内容であるため様式からは除外した。また、従前は学年ごとに毎年改訂して作成していたが、低中高の3つの段階の年間指導計画を作成し、3年ごとに改訂することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新学習指導要領に沿った題材名や目標の検討</li> </ul> <p>従前は生活単元学習に沿った題材名であったため、音楽科の要素を取り入れた題材名に変更し、目標については学習指導要領を参考にしながら低中高で系統性をもたせ、学期ごとに設定した。個人の目標や評価については、各学級担任が個別の指導計画に記載することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材曲の選定及び内容の分類、教材欄の入力、説明書き作成</li> </ul> <p>学年別かつ実態差のある集団で音楽科の授業を行っているものの、生活年齢に合わせた教材の工夫も必要であることから、学習指導要領に示された小学校及び特別支援学校の共通教材、「おんがく☆、おんがく☆☆、おんがく☆☆☆」で採用されている教材、行事や流行、児童の好み等も考慮した教材など幅広い教材曲を扱うこととした。</p> <p>② 教材作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 従前に作成された教材を整理し、今回作成した年間指導計画で新たに扱う教材曲の教材作成を中心に行った。教材曲の歌詞、教材曲をイメージできる写真やイラスト等を含めたプレゼンテーションを作成し、教師同士で共有して自由にアレンジしながら活用できるものにした。</li> </ul> |

|                        |  |
|------------------------|--|
| <p>成果と課題<br/>(まとめ)</p> | <p>新学習指導要領では、児童が音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力を育成するために、多様な音楽活動を幅広く体験することが大切であると示されている。現状として小学部の音楽科の授業は、音楽専科の教師が授業を行うことが難しい状況であるため、今回作成した年間指導計画に沿った授業を行うことで、児童が幅広い要素の音楽に触れて学ぶことができ、小学部全体で一定の水準を保ちながら授業を行うことができると考えられる。しかし、学年別の実態差の大きい集団での授業であることから、個々の児童に対する配慮や教材の工夫が求められる。そのために、教師一人一人の音楽科に関する知識技能を更に高め、専門的な視点で児童に関わりながら授業実践を行っていくことが今後必要であると考え。また、今回作成した年間指導計画に沿って行った授業を振り返りながら、次回の改訂に向けての改善点をまとめたり、個々の児童の学びの様子や変化等を個別の指導計画に記録し、授業改善に生かしたりしていくことが大切である。</p> |
|------------------------|--|

7 個人研究班 テーマ一覧

(1) 小学部

| カテゴリー | No | 研究テーマ  |
|-------|----|--|
| 学習指導  | 1  | 発達障がいのある児童生徒のソーシャルスキルの構築   |
|       | 2  | 自立活動の指導の充実を目指して<br>～児童Mの中心的課題、指導目標や内容の整理と実践の探求～                            |
|       | 3  | ボタンはめ外し動作の向上に向けての教材の工夫   |
|       | 4  | 行き先や場所を適切に伝えることができる力をはぐくむ指導の工夫について   |
|       | 5  | 児童の主体的に学ぶ力を育てる指導・支援の在り方～音楽活動を通して～  |
|       | 6  | 平仮名や漢字を子どもが主体的に学ぶ授業づくり   |
|       | 7  | 「新しい生活様式」を取り入れた授業の実践   |
|       | 8  | お金の金種の区別と支払いができるようになるための学習指導   |
|       | 9  | 肢体不自由児の興味・関心の表出（表現）を引き出す指導の実践  |
| 生活指導  | 1  | 偏食の改善に向けた取り組み～スモールステップと称賛を手立てとして～  |
|       | 2  | 情報収集と評価により、自己肯定感を高めるための手立てはどうあればよいか  |
|       | 3  | 片付けや着替えに課題のある児童に対する個別の支援の取り組み  |
|       | 4  | 児童の行動理解と対応   |
|       | 5  | 手と目の協応を目指した自立活動の取り組み   |
|       | 6  | 児童が適切な行動をとるために必要な教師の適切な支援についての研究—「他者との関わり」に着目して—                           |
|       | 7  | 自閉症・知的障がい・多動児における生活の困り感についての指導事例研究<br>～負の体験記憶を薄め、行動の分岐点を捉えて、望ましい行動形成をする指導～ |
|       | 8  | 「自分を守る力」につながる指導を目指して～安全・防災学習をとおして～   |
| その他   | 1  | スクールワイドPBSの可能性を考える<br>～研修会参加や実践校からの聞き取り等をとおして～                             |
|       | 2  | 自閉症の特性と対応の理解   |

## (2) 中学部

| カテゴリー | No | 研究テーマ  |
|-------|----|--|
| 学習指導  | 1  | 生徒 A の保健室利用に向けた段階的な指導について                          |
|       | 2  | 魅力的な農場と作業学習の学習成果の向上                                |
|       | 3  | 子どもが自ら考え、分かる授業づくり ～数学の教材・教具の工夫を通して～                |
|       | 4  | ひらがなの読み書きを取得させるための指導について                           |
|       | 5  | 合同音楽の授業での重複学級生徒の参加・活動について ～教具の工夫を通して～              |
|       | 6  | 生徒 A のコミュニケーション力を高めるための支援の在り方                      |
|       | 7  | 生徒の学習意欲を高め、共に学び合うことができる学習活動はどうあればよいか               |
|       | 8  | 生徒の自発的活動を引き出す教材の工夫                                 |
|       | 9  | 自立音楽による自立と社会参加をめざして                                |
|       | 10 | 音楽活動を取り入れた自立活動の実践 ～生徒とともに成長を目指して～                  |
|       | 11 | 肢体不自由児の興味・関心と表出（表現）を引き出す授業づくり                      |
|       | 12 | 実態差の大きな集団における音楽科の授業展開の工夫                           |
|       | 13 | 主体的に創作活動に取り組む力をはぐくむ題材の工夫 ～美術科～                     |
|       | 14 | 主体的な学びを促す自立活動の指導・支援の在り方                            |
|       | 15 | 主体的な学習を引き出すための学習指導を目指して                            |
|       | 16 | 主体的に活動できる授業づくり ～教材の工夫を通して～                         |
|       | 17 | 実態差の大きい学習グループにおける学習内容の設定<br>～作業学習の教材・教具の工夫を通して～    |
|       | 18 | 作業学習における指導方法の工夫                                    |
|       | 19 | ライフスキルとして身に付ける買い物学習                                |
|       | 20 | 一人一人が楽しめる授業づくり（自立活動・音楽）<br>～子どもたち同士の関わりを生かして～      |
| 生活指導  | 1  | 生徒 A の保健室利用に向けた段階的な指導について                          |
|       | 2  | 基本的な生活習慣に関する指導 ～排泄の自立を目指して～                        |
|       | 3  | 肥満傾向の改善を目指した指導・支援                                  |
| その他   | 1  | 感情のコントロールが難しい生徒の行動変容を促すための支援<br>～好ましい人間関係の構築を目指して～ |
|       | 2  | 伝え合う力の育成 ～聞く、話す、読む、書く活動を通して～                       |
|       | 3  | 生徒 A のコミュニケーション力を高めるための支援の在り方                      |
|       | 4  | 学校生活における学習活動の充実を図るための取組                            |

### (3) 高等部

| カテゴリー | No | 研究テーマ  |
|-------|----|--|
| 学習指導  | 1  | 特別支援学校高等部における外国語指導の実際<br>～CAN-DO リストの活用を中心に～                               |
|       | 2  | 音楽における生徒の主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業づくりを目指して                                   |
|       | 3  | 新学習指導要領に対応した家庭科の年間指導計画作成について（他1名）  |
|       | 4  | 作業学習における教師の関わり方について～Aさんの実践を通して～  |
|       | 5  | コミュニケーション力の向上のための学習指導  |
|       | 6  | 生活単元学習における学習内容の工夫<br>～社会自立を目指した生活スキルの育成を目指して～                              |
| 進路指導  | 1  | 自己の適性を自覚させた進路指導の取り組み方  |
|       | 2  | 生活リズムの改善を目指した指導・支援と自己の適性を自覚させた進路指導の在り方                                     |
| 生活指導  | 1  | 精神的に不安定で衝動性のある生徒に対する基本的な生活習慣や人に対する接し方についての指導                               |
|       | 2  | 性の社会的逸脱行為のある生徒に対する支援の在り方について   |
|       | 3  | 生徒の自立を目指して   |
|       | 4  | 新しい生活様式を取り入れた学校生活  |
|       | 5  | 食事スキルの向上を目指した支援方法の工夫   |
|       | 6  | 日常生活における衣服の着脱等に関する補助具の作成について   |
|       | 7  | 事故防止に向けた安全指導の工夫  |
|       | 8  | アンガーマネジメントを用いた感情コントロールの習得<br>～気持ちの安定した生活の基礎作り～                             |
| その他   | 1  | 発達障がいと不安障がいのある生徒と保護者に対しての理解、及び効果的な指導・支援について                                |
|       | 2  | 自立活動 心理的な安定<br>他害や自傷、暴言をさせない取り組みの実践<br>～イライラや怒りを爆発させる前に気持ちを落ち着かせるための指導・支援～ |
|       | 3  | 感情のコントロールが難しくネガティブ思考に陥りやすい行動変容を促す支援について                                    |

|         |   |
|---------|---|
| チーム名    | 寄宿舎研究班  |
| 研究テーマ   | これからの寄宿舎の在り方  |
| テーマ設定理由 | <p>寄宿舎は教育の場として、より一層、学校との連携を密にし、新たな方向性を見いだしていく時期を迎えていると考える。学校の教育目標のもと、寄宿舎を有効的に活用するためには、学校と寄宿舎相互で統一した判断基準となる入舎規定を見直す必要があるのではないかと。今後も、生徒の生活能力や社会性を伸長し、自立と社会参加に貢献できるような寄宿舎であり続けるために今回のテーマを設定した。</p>   |
| 研究の方法   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入舎規定に関するアンケートの実施</li> <li>2 学級担任への聞き取り（入舎理由・福祉的なつながり・舎に期待すること）</li> <li>3 各県の入舎規定の情報収集と整理</li> <li>4 入舎規定についての話し合い（各棟・研究委員会）</li> <li>5 入舎規定についての話し合い（拡大研究委員会）</li> <li>6 寄宿舎研修の実施</li> </ol> <p>寄宿舎の現状を認識し、学級担任や保護者の願い等を考慮しながら、寄宿舎指導員としてどのような寄宿舎を目指していくかを議論し、入舎規定の見直しを行った。</p>  |
| 研究の実際   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入舎規定に関するアンケートの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>現在の入舎規定について、寄宿舎指導員にアンケートを実施。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 遠距離等のため通学困難である者 <p>通学困難者は減少傾向にあるため見直しが必要との意見もあったが、寄宿舎の設置目的でもあるため、妥当な条件であるという意見が多かった。ただし個別支援の程度が高い生徒も対象となる条件のため、寄宿舎管理運営上、一概に入舎規定として扱うには課題があるとの意見も上がっていた。</p> </li> <li>(2) 身辺自立ができる者 <p>身辺自立の定義が曖昧で、個別支援を多く必要とする生徒が在籍している現状がある。身辺自立の確立を支援するのも寄宿舎指導員の職務であるため、「部分的な支援で集団生活を送ることができる」などの改定意見もあった。しかしながら、夜間の職員体制、他の生徒への支援不足、緊急時の安全管理などを考慮し、身辺自立が確立していることが望ましいという意見も上がっていた。</p> </li> <li>(3) 校長が教育上必要と認める者 <p>校長の異動により、単年で特別基準が生じたり消滅したりすることは、運営上の混乱を招き、保護者の不信感を募らせる危険性があるという意見が多かった。入退舎検討委員会で協議した上で校長が承認する現状の流れを別途示した方がよいとの意見が上がった。</p> </li> <li>(4) その他 <p>舎の利用を推奨するには、現在の入舎規定を見直し、文言や条件などを再検討する時期であるという意見が多く見られた。</p> </li> </ol> </li> </ul> </li> </ol> |

|                        |   |
|------------------------|---|
|                        | <p>2 学級担任への聞き取り（入舎理由・舎に期待すること・福祉的なつながり）</p> <p>(1) 入舎理由・舎に期待すること</p> <p>寄宿舍に対しての保護者の期待を集計した結果、卒業後の社会参加に向けた身辺自立の形成が多くを占めた。他、集団生活を通しての学びを理由とする意見も多く、学級担任からも同様の期待が多く見られた。一方、様々な理由により家庭環境との引き離しが理由になっているケースも多かった。入舎理由が不明というものや、入舎願いと違う情報もあった。</p> <p>(2) 福祉的なつながり</p> <p>寄宿舍では、閉舎時にも安心して利用できる体制の準備と、卒業後の福祉との継続したつながりを見越して、福祉サービスとのつながりを勧奨している。送迎サービス、日中一時支援、ショートステイの利用状況は概ねあるようだが、サービス自体の存在を知らない一部の保護者もいることが分かった。</p> <p>3 各県の入舎規定の情報収集と整理</p> <p>各県の入舎規定について、他県がどのような規定を設けているのか情報収集を行った。項目ごとに仕分けすることで、入舎基準、入舎条件、退舎基準で構成されていることが見えてきた。入舎規定アンケートで、現在の入舎規定について見解が分かれる結果となった。</p> <p>4 入舎規定についての話し合い（各棟・研究委員会）</p> <p>学級担任への聞き取りや寄宿舍職員の考えを踏まえ、集約した各県の入舎規定を糸口に、本校独自の入舎基準、入舎条件、退舎条件を棟ごとに検討し、研究委員で試案を作成した。検討を重ねるごとに入舎規定の方向性が見えつつも、分散協議による難しさがあったが、試案を基に検討を繰り返した。</p> <p>5 規定についての話し合い（拡大研究委員会）</p> <p>研究委員に主任や副主任、各部長を含めた拡大研究委員会を開催した。平行線であった分散協議から抽出協議をしたことで、詳細な意見も交えながら協議することができた。入舎基準となる3つの柱と入舎条件、退舎条件を抽出することができた。</p> |
| <p>成果と課題<br/>(まとめ)</p> | <p>今年度、学校同様に、寄宿舍も開舎50年の節目を迎える。時代が変化する中で入舎事情も変容し、入舎の目的が不明瞭な生徒も増えてきている。今回、入舎規定の見直しに取り組み、入舎規定案を作成することができたことに加え、寄宿舍の現状や求められるニーズとは何かを再確認することができた。また、今後の寄宿舍の有用性について、視野を広げながら協議を重ねられたことも大きな収穫となった。</p> <p>今後も特別支援教育における寄宿舍が、集団生活をとおして自立や社会性の獲得を目指す教育の場であり続けるために、先の50年を見越した変革を求められる時期を迎えている。令和3年度から職業コースが試行実施されることを踏まえて、本校ならではの寄宿舍として活用できる魅力が秘められているのではないだろうか。学校と連携し、今後の寄宿舍の在り方を情報共有しながら研究を重ねていきたい。</p>   |

## < 入舎規定 (案) >

本校寄宿舍に入舎できる者は、以下のいずれかに該当するものとする。

- 通学が困難であると認める者
- 寄宿舍生活を通して自立と社会参加に向けた力の習得を目指す者
- 家庭の諸事情により、入舎させることが適当である者

上記の入舎基準に該当する者であっても、下記の条件をもとに、入退舎検討委員会にて入舎の可否を判断し、校長の承認を得るものとする。

- 医療的ケア等の処置の必要性がないこと
- てんかん発作は、服薬によって体調が安定している状態であること
- 常時の個別対応を必要とせず、部分的な支援で集団生活を送ることができること
- 危険を伴う行動がないこと
- 緊急避難時に職員の指示に従い、避難ができること
- 緊急時、迎えや病院受診の要請に近親者が応じることができること
- 不測の事態に対応できるよう、身元引受人を立てられること
- 本人と保護者に入舎の意思があり、保護者が寄宿舍教育を十分理解した上で協力できること

以下の場合、入退舎検討委員会を経て、退舎等適切な措置を行う。

- 入舎条件に当てはまらなくなった場合
- 舎生の疾病または家庭の事情等で必要な場合
- 著しい問題行動を起こした場合

## IX 研究のまとめと今後の展望

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって臨時休業が相次いだり、様々な教育活動や研修会等が中止になったりして、多大な制約を受ける1年であった。そのような状況の中で研究を進めることになったが、各研究班が研究仮説に基づいて工夫しながら研究に取り組み、多くの成果を得ることができたのではないかと考える。

以下、今年度の研究についての成果と課題について考察を述べる。

まず、「重点研究プロジェクトチーム」については、宮崎県教育委員会推進事業の指定を受け、その事業と連携した研究に取り組んだ。「高等部職業コース設置に向けた研究」によって「高等部Ⅲ課程（社会生活自立や障害者雇用枠での一般就労を目指す教育課程）」を、普通科内『職業コース』に移行することになり、令和3年度から試行を開始し、令和4年度からの本格実施を目指す。この研究によって、軽度知的障がいの生徒の職業教育や進路指導がさらに充実し、就労に向けてのスキルアップが図れることや、本県の特色ある取組としての大きな第一歩を踏み出せたことに非常に大きな成果を感じる。また、「企業と共同して取り組む作業学習の開発」に関する研究においては、企業等と連携していくことで、実際に企業側が求めている生徒の資質や能力は何かが明確になり、そのことで授業づくりの改善を図ることができたことが成果として挙げられている。

「重点研究プロジェクトチーム」における研究は、今後も引き続き研究を行っていくことになり、次年度が研究のまとめとなる。本校生徒ならびに、本県の高等部生徒の自立支援・就労支援の充実に向けた大変意義のある研究であるため、残された課題を一つずつ検証していきながら、更なる成果を生み出すことを期待したい。

次に、「テーマ別研究チーム」については、特に「グループ別研究班」は、昨年度からの継続研究班もあり、今年度は大きな集大成を迎える研究ばかりであった。「キャリア教育研究班」においては、来年度から全学部で統一したスケールでキャリア教育に関する評価を行うための「キャリア教育実態評価表」を完成させることができた。このことによって一貫したキャリア教育の充実がこれまでよりもさらに期待できる。「保健体育科研究班」では、体づくり運動に焦点を当て、これまで研究を積み上げてきた。カリキュラム・マネジメントの実施や指導方法の工夫により生徒の主体的な活動を引き出したことや、今後の学習活動にも活用できる数多くの動画集や事例集を作成することができたことなど成果も大きい。「小学部プログラミング教育研究班」は、大学との連携によって新しい学習指導要領に基づいてプログラミング的思考を育成する先進的な取組を進めることができた。「小学部年間指導計画見直し班」「小学部音楽年計見直し・教材作成班」においては、改訂された学習指導要領への対応という視点で年間指導計画等の見直しが進んだ。これらの研究班の今後の課題としては、作成された評価表や年間指導計画や教材等を活用した授業の実践、そして活用後の検証及び改善・見直しなど今年度の研究内容をより深化させていく必要がある。

そしてさらに、「テーマ別研究チーム」では「個人研究班」を組織し、個々の教師が各々のテーマを設定して研究に取り組んだ。個人研究という新しい研究スタイルを導入するに当たり、研究部としても試行錯誤の中、どのように研究を推進していけばよいのか、どのようにまとめていけ

ばよいのかなど、課題に直面することも多々あった。「個人研究」を導入した目的の一つには、教師一人一人の抱える課題や問題意識は様々であり、個々の状況に応じて焦点化した研究課題を取り上げ、主体的に研鑽に励むことによって教師自身の指導力や授業実践力の向上を目指すことが挙げられる。「個人研究班」の一人一人の研究テーマを見ても実に多岐にわたる研究テーマがあり、日々の授業改善や指導・支援につながる研究内容であったことも見て取れる。しかし、個人で研究を行う中で、例えば、「果たして研究の方向性がこれで正しいのだろうか」、「成果が得られる研究となるのだろうか」などと言った不安の声もあった。その点については、相談システムを設けたり、適宜、進捗状況を報告し合いながら協議を行うなどの手立てを取ったりして進めていき、それらの不安を解消することもできた。個々の課題解決に向けてそれぞれが真摯に研究に取り組み、そして児童生徒の変容を見出す指導・支援の内容や方法等を導くことができたことに大きな成果があったと言えよう。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、人の制限や、経済活動の停滞、感染症対策を徹底するための「新しい生活様式」への適応など、世界的に大きな変化が生じてきている。そして新しい時代とも言える「with コロナ時代」「ポストコロナ時代」という時代を迎え、3密回避をはじめとする新しい生活様式を取り入れた教育活動へと転換していくなど、学校教育の在り方も大きな転換期を迎えている。また、「1人1台端末」の「GIGAスクール構想」も導入され、ICTを活用した学習活動の充実も求められている。現在、本校でも集団を避けながらも児童生徒の学びを保障していくためのオンライン授業や職員のオンライン会議・研修といった新しいスタイルでの取り組みが徐々に広がってきている。実際、今年度の研究に関しても、全体説明会や全体報告会については、分散型のリモートによる会議システムにて行った。また、個人研究においては「新しい生活様式を取り入れた授業実践」などのテーマも中には挙げられていた。劇的に加速する時代の変化に対応していく学校教育を担うためにも「新しい時代の新たな学びの実現」に向けて学校がどのように教育活動を展開していく必要があるのかを模索していくことが喫緊の課題となってきた。次年度は、このようなコロナ禍における特別支援教育の在り方についてあらゆる視点から課題を洗い出し、整理し、研究をとおして追究していかなければならないと考える。その際、今年度の個人研究において様々な課題分析の視点、工夫のアイデアがあったように、私達教師一人一人がもてる力を存分に発揮し、チームとなって研究に取り組み、互いに考え、学び、高め合うOJTを推進しながら研究に努めていきたい。

結びに、本年度の研究に御協力をいただいたすべての皆様に感謝するとともに、本研究の成果が、今後の取組の一助となることを切に願いたい。